

道内初の取り組みである

サーモン海面養殖試験事業は、3年目を迎えるにあたり、熊石地域に大型のサークル型イクス1基を新たに整備し、本格的な操業を見据えた試験を行い、サーモン養殖技術の向上と生産の拡大を目指すとともに、事業化を図るうえで重要となる種苗の生産確保についても、令和3年度中に具体的な整備方針を掲げ推進してまいります。

また、サーモンの生産能力の向上にあわせ、サーモンのブランド化と知名度の向上を図るため、「北海道二海サーモン事業推進協議会」を立ち上げ、安心・安全につながる養殖管理手法の研究や市場調査、各種PR活動の展開など、生産から販売まで一体的に推進する体制を整え、北海道サーモン発祥の地として産地形成を目指してまいります。

さらに、担い手や漁業就労者対策、水産加工業の振興のほか、漁港整備事業について、関係漁業協同組合と十分に協議を重ね、漁船の大型化への対応や港内での増養殖事業の推進など、漁港の機能強化と効率化に向け、国および

北海道に要請してまいります。

(3) 商工業の振興

令和2年度は新型コロナウイルス感染症により、飲食業、宿泊業を皮切りに関連業種などへの波及によって、町内の商工業事業者の痛手は計り知れないものであります。

このため、感染症の状況を見据えながら、経営支援としての利子・保証料の補給、一時対策としての各種応援金の給付、需要喚起としての商品券の販売といった対策を講じてきました。

令和3年度においても、まずは新型コロナウイルス感染症に伴う町内事業者の経営環境の悪化への対応を支援することが、最重要課題と認識しています。

このため、町内事業者をはじめ町内経済全体の状況の把握に努めるとともに、これまでの施策執行によって培ったノウハウを活かして、事業者それぞれにきめ細かく届く対策を講じてまいります。

また、この状況を踏まえ、ウィズコロナやアフターコロナを目指して業態を変えるなどのチャレンジを行う事業者へ

の応援も検討してまいります。

(4) 観光の振興

観光に関連する業種については、新型コロナウイルス感染症の影響のまさに中心点となつていくことから、レジャー客を主な客層とする温泉旅館等のダメージを緩和すべく、対策に努めてまいります。

また、感染症の終息後には、観光による経済効果が高まるとともに、北海道新幹線の札幌延伸も迫つてまいります。

このタイミングを逃すことなく、観光を産業として持続させるための基盤を作り始めなければなりません。このため、メインとなります「食」を中心に民間活力を導入した拠点作りを具体化させてまいります。

熊石地域の道南休養村は、キャンプやパークゴルフ、温泉、川遊びなど豊かな自然環境を満喫できるレクリエーション施設ですが、利用者が充実した余暇を満喫できるよう、老朽施設の改修のほか、インターネット予約の普及など、利便性の向上に努めてまいります。

(5) 雇用の創出と雇用環境の向上

少子高齢化や人口減少が加速する中、八雲町における産業の担い手不足、町外への労働力の流出が、商工業のみならず、町全体の大きな課題であることは明らかです。

この課題への対応として、令和2年度においては、商工業分野において町内の若手事業者を経営の中心に据え、経営者の育成を担う「株式会社木蓮」を設立しました。

試行錯誤で基盤づくりを行ってきた木蓮であります。令和3年度においては、コロナ禍の中、需要が伸びているテレワークやワーケーションの誘致を目指した事業を展開するための準備を進めており、町としても八雲町の産業振興や人材確保・育成の弾みとなることを期待し、積極的に応援してまいります。

また、酪農における青年舎、商工業における木蓮に引き続き、さらに分野を広げて産業の担い手を育てるための取り組みを継続していくこととしていきます。

(6) 再生可能エネルギーを活用した産業の振興

令和2年度に発足した新政策においても、脱炭素社会を目指すことを大きな目標と掲げており、再生可能エネルギーの導入は、技術革新とも相まって、一層大きな社会の流れとなることは確実であります。

八雲町は、さまざまな自然エネルギー資源に恵まれた土地柄でもあり、令和2年10月には、蓄電池併用型としては国内最大の太陽光発電所が稼働しました。

また、酪農のまち、八雲町の特色であるバイオガス発電も増加しており、研修牧場においても導入することとしています。

再生可能エネルギーの導入は、令和3年度においても変わらず、重点政策として位置付け、民間活力の活用や連携によって、エネルギー源や蓄電などのキャリアの確保について研究してまいります。

なお、檜山沿岸における洋上風力発電事業については、檜山各町ならびに関係機関と十分協議のうえ、八雲町として推進の立場で対応してまいります。